

この度、総合優勝をできたこと非常に嬉しく思っている。事務局として準備の中心となって尽力された、後藤貴宏さん、佐々木礼一さん、岩森昭憲さんへ総合優勝を！合言葉にそれぞれがベストを尽くした結果であった。北海道は御存知の通り非常に広域で、横幅は東京→大阪を超える。全体で練習会というわけにはいかず、各々でトレーニングを積んできた。大会が近づくに連れ、若手がライングループを作り、チーム北海道を盛り上げた。その準備が花開き、目標を達成できたことは、その努力のプロセスとともに、北海道のバドミントンに関係する教職員に大きな自信と希望、夢を届けられたと思う。

中でも、一般男子団体のA・Bの決勝進出は、我々に感動、驚きをもたらした。Bが優勝という結果は、他県の皆様も驚かれたのではないだろうか？オール北海道で挑んだA・Bチームである。両チームが互いに称え合い、「両方優勝だ！」と声掛け合っている姿はほほえましい光景であった。また、全国大会で活躍した経験の少ない選手もおり、この決勝進出は、これからのバドミントン人生に大きな良い影響を与えると確信している。

以下は、一般の部はベスト4まで、他は優勝者の感想を記載する。一般男子ダブルスで橘 聖弥さん、最年長41歳の早坂幸平さんがベスト4で全日本総合予選に出場には驚かされた。早坂さんは一般男子団体に監督兼選手としてチームを鼓舞し優勝に貢献した。恐らく全日本総合予選の出場最年長となるであろう。シニア世代の期待を一心に受けベストの戦いをしてきてほしい。一般男子シングルスで3位の渡邊 黎さんの安定感のあるプレー、風をうまく利用するコントロール力に脱帽した。40歳単複、壮年男子団体を優勝した大島健史さんのこれまでの積み上げた努力、そして発揮された高いパフォーマンスに圧倒された。40歳複、壮年男子団体優勝の妹尾将義さんの大会までのピークパフォーマンス作りのプロセスに感服した。50歳ダブルス、壮年男子団体優勝の芳村晋悟さん、桜井敬大さんの長年積み上げたチームワーク、圧倒的な読みに驚愕した。65歳男子シングルス優勝の熊谷敏夫さんの粘り強さ、メンタルコントロールの旨さを見習いたいと思った。壮年男子団体優勝の30歳ダブルス渡辺成さん、矢野凜平さん、40歳ダブルス安川拓穂さん、高野純平（筆者）は昨年各年代個人戦ダブルス優勝ペアとして団体戦に貢献した。30歳女子ダブルス優勝の柴田実沙さん小田彩加さんの継続力に感動した。

以上記載できなかった選手も沢山いるが全員で勝ち取った総合優勝であり、全員を称えて報告記を終えたいと思う。来年の熊本大会が待ち遠しい！

【北海道北広島高等学校 教諭 高野 純平】